

社会技術研究開発について

2019年5月



Japan Science and Technology Agency

科学技術振興機構（JST）のご紹介

■ 未来を共創する研究開発戦略の立案・提言

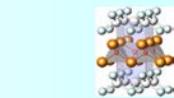
2019年度予算 1,225億円
(1,139億円)

- 研究開発戦略センター(CRDS)
- 中国総合研究・さくらサイエンスセンター(CROC)
- 低炭素社会戦略センター(LCS)
- 研究開発戦略立案のための情報基盤システム整備

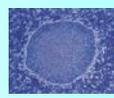
■ 知の創造と経済・社会的価値への展開

戦略的な研究開発の推進

- 戦略的創造研究推進事業
- 新技術シーズ創出
- 先端的低炭素化技術開発
- 社会技術研究開発



新しい高温超電導物質の発見
【東京工業大学教授 細野秀雄】



ヒトIPS細胞を樹立
(2012ノーベル生理学・医学賞)
【京都大学教授 山中伸弥】

未来社会に向けたハイインパクトな研究開発の推進

- 未来社会創造事業
- ムーンショット型研究開発制度の創設

人材、知、資金の好循環システムの構築

- 研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)
- 大学発新産業創出プログラム(START)
- 共創の場形成支援
(COI、リサコン、OPERA、イノベハブ)



青色LED
(2014ノーベル物理学賞)

国際共同研究・国際交流・科学技術外交の推進

- 地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS)
- 戦略的国際共同研究プログラム(SICORP)
- 日本・アジア青少年サイエンス交流事業



情報基盤の強化

- 科学技術情報連携・流通促進事業
- ライフサイエンスデータベース統合推進事業



■ 未来共創の推進と未来を創る人材の育成

未来の共創に向けた社会との対話・協働の深化

- 未来共創推進事業



イノベーションの創出に資する人材の育成

- 研究人材キャリア情報活用支援事業
- プログラム・マネージャー(PM)の育成・活躍推進プログラム
- 研究公正推進事業

未来を創る次世代イノベーション人材の重点的育成

- 次世代人材育成事業
 - スーパーサイエンスハイスクール支援
 - 科学技術コンテストの推進
 - 大学等と連携した科学技術人材育成活動の実践・環境整備支援
 - グローバルサイエンスキャンパス
 - ジュニアドクター育成塾
 - 女子中高生の理系進路選択支援プログラム



社会・経済の変革をもたらす
科学技術イノベーションの創出

社会技術研究開発について

社会技術とは

- 自然科学と人文・社会科学の複数領域の知見を統合して新たな社会システムを構築していくための技術*
- 社会を直接の対象とし、社会において現在存在しあるいは将来起きることが予想される問題の解決を目指す技術

※「社会技術の研究開発の進め方について」（平成12年12月）より

JST社会技術研究開発センター(RISTEX)の取組・アプローチ



①問題解決型

- 関与者（ステークホルダー）との密接なコミュニケーション
- 現場主義（関与者との協働）
- P D C Aサイクルの徹底
- 人文・社会科学と自然科学との連携
- 社会への実装を強く意識

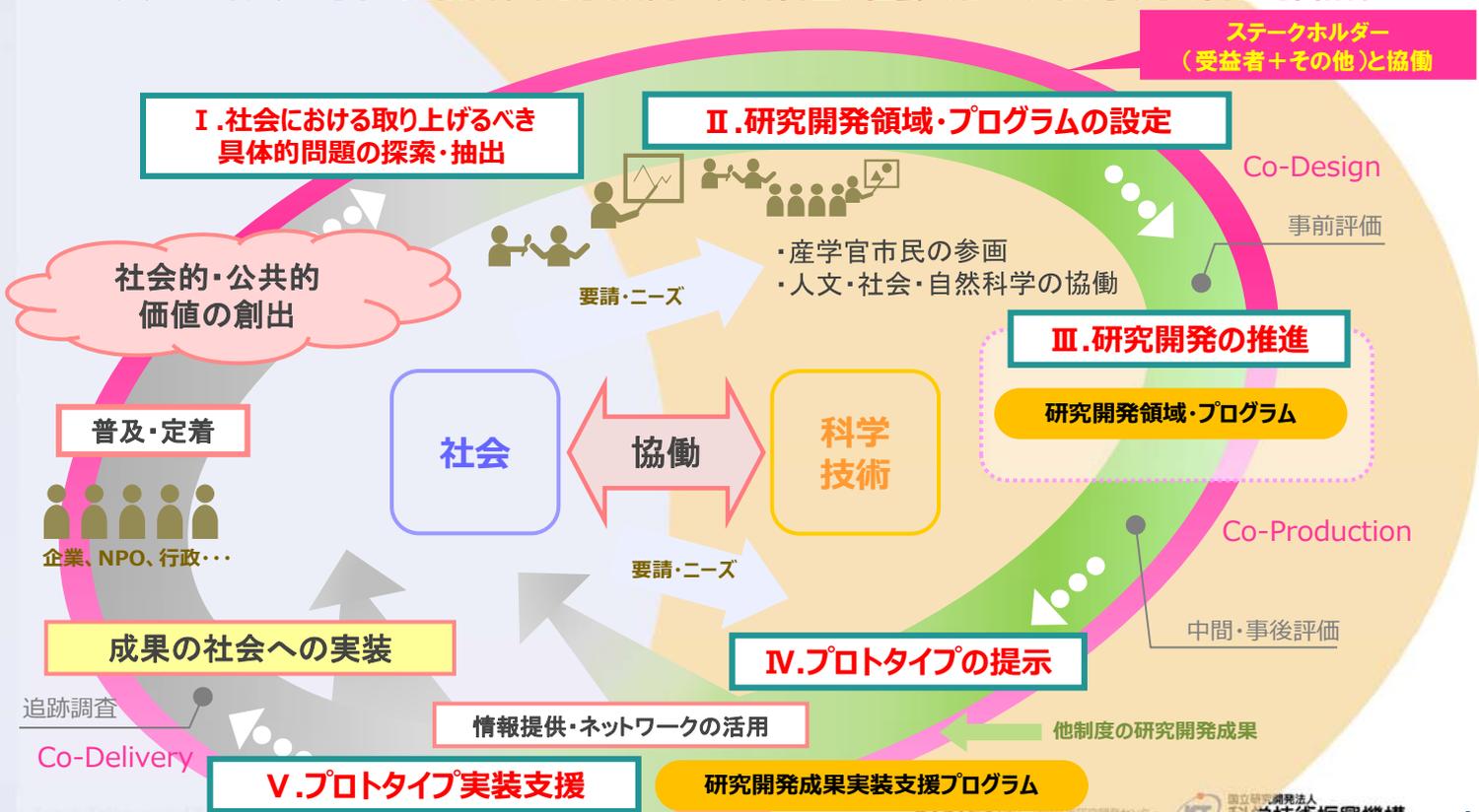
②技術の社会化型

- 政策担当者等関与者へオプションを提示、そのための場や機能の構築
- 実装に向けた活動を推進

社会技術研究開発センターの重視する研究開発

社会実装を意識した問題解決型研究開発の推進

ステークホルダーと早期に協働することで成果の質的向上、社会実装への確からしさの向上を目指す



RISTEXの研究開発

- アカデミックな科学者共同体内部で完結するような研究への支援ではない。
- 技術上のイノベーションの開発研究への支援でもない。
- 企業の市場調査的な研究への支援でもない。
- NPOの活動への支援でもない。

しかし、それらのすべてが関与者になり得る。

一般の市民、教育機関、メディア、産業・企業、行政、法制、そして科学者共同体に携わる人々のすべて、或いはその一部を巻き込んだ、社会システムのイノベーションを目指す研究をこそ、支援したい。

「科学技術と人間」研究開発領域 領域総括 村上 陽一郎 先生
「科学技術と社会の相互作用プログラム」(平成19～24年度)
公募時のポイントより。

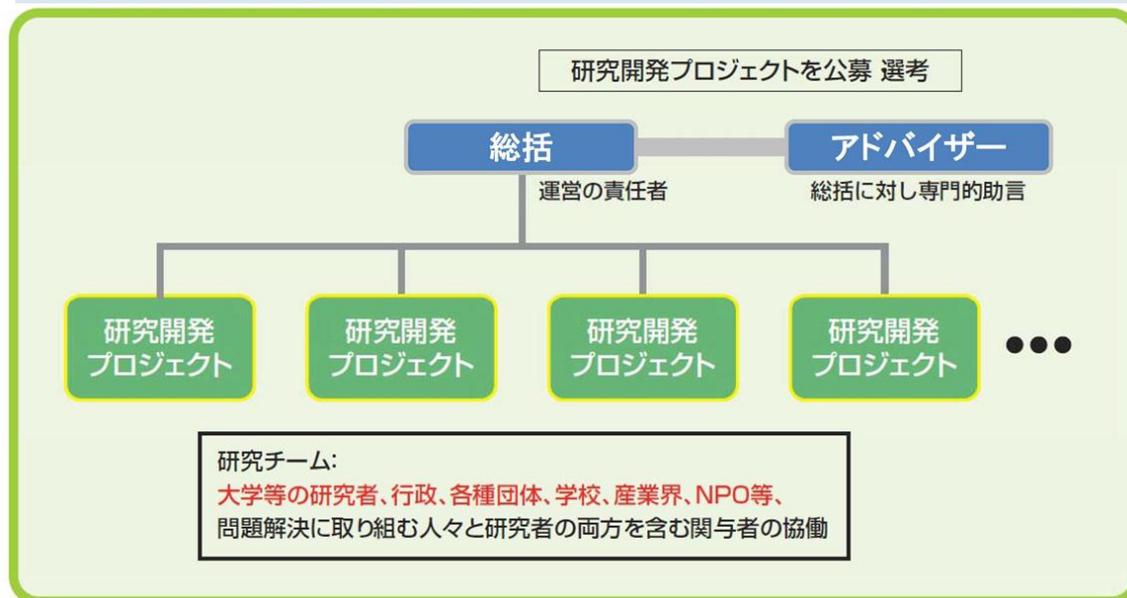
社会技術研究開発センター運営体制



 = 2019年度公募予定の研究開発領域等

研究開発領域・プログラムの運営体制

～領域の目的達成に向けて、領域総括のマネジメントのもと研究開発を推進～



- 研究開発プロジェクト（課題）の募集・選考、領域会議、サイトビジット（現地視察）、領域全体会議（研究開発実施者を含む合宿）等の実施
- 必要に応じ、研究開発プロジェクトの計画変更、統廃合も実施
- アウトリーチ活動、外部関係者との人的ネットワークの構築